

研究開発課題中間評価結果

事業名（領域名）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 (RNA 標的創薬技術開発)
公募研究開発課題名	核酸医薬品実用化のための製造及び分析基盤技術開発
評価研究開発課題名	革新的次世代核酸医薬
代表機関名	学校法人東京理科大学
研究開発代表者名	和田 猛
所属・役職	薬学部・教授
全研究開発期間	令和3年度開始～令和7年度終了予定

【評価結果】

優れている／計画を超えて進捗している

【評価コメント】

核酸医薬の需要が高まっている中、新規核酸誘導体の合成法やその分離分析法の確立が進み、DNA 合成法や PB 核酸の合成法において、画期的な手法が確立され、良好な研究成果が得られている点が評価された。中間目標を上回る成果があり、様々な核酸合成・分析技術の確立が進んでおり、連携体制も適切に機能している。

一方一部のプロジェクトに遅れが見られ、論文発表数や特許申請件数が予想よりも少ない点や、知財戦略との関連を含めて改善が必要な点が指摘された。

PB 核酸のキラリティ制御に加えて、まずは非制御型 PB 核酸の合成法や生物活性について優先すべきではないかとの指摘もあった。

一部の課題が未解決であり、特に塩基部無保護による DNA 合成法やリン酸の立体配置の効率的決定法などが今後の研究の焦点となる可能性が指摘された。

また合成化学を専門とする評価委員以外には成果が分かりにくく、AMED の研究課題として臨床研究を専門とする委員等にも価値を認めてもらえるように説明を工夫することが望まれる。